

修士論文（要旨）

2021年7月

母語話者はどのように「やさしい日本語」を作るのか
—非母語話者と接触機会の少ない母語話者からの発信の可能性—

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

219J3006

小池 博美

Master's Thesis (Abstract)
July 2021

Native Speakers' Construction and Usage of "Plain Japanese"
in Their Early Communication with Non-Native Speakers:
Creating Opportunities for Communication Where Few Exist

Hiromi Koike

219J3006

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究目的	2
第2章	「やさしい日本語」の現状	2
2.1	緊急時の「やさしい日本語」	2
2.2	平時での「やさしい日本語」	3
2.3	多文化共生と「やさしい日本語」	3
2.4	「やさしい日本語」マニュアル	4
第3章	先行研究	5
3.1	書き言葉と「やさしい日本語」	5
3.2	接触場面での「やさしい日本語」	5
3.3	母語話者への「やさしい日本語」の指導	6
第4章	調査概要と分析方法	7
4.1	調査の研究方法	7
4.2	予備調査	7
4.3	調査協力者	8
4.4	データの収集方法	9
4.5	分析方法	11
4.5.1	「やさしい日本語」へ変換後の語彙と文法の難易度の分析方法	11
4.5.2	「やさしい日本語」への変換における機能カテゴリーの分析方法	13
4.5.3	「やさしい日本語」への変換における調査協力者の認識に関する分析方法	13
第5章	調査結果と分析	13
5.1	使用された語彙の難易度	13
5.2	使用された文法の難易度	14
5.3	「やさしい日本語」への変換における機能カテゴリー	15
5.4	プロトコルデータの個人別分析	20
5.4.1	FAの分析	20
5.4.2	FBの分析	22
5.4.3	FCの分析	24
5.4.4	LDの分析	26
5.4.5	LEの分析	28
5.4.6	LFの分析	30
5.5	「やさしい日本語」への変換に対する調査協力者の認識	32
5.5.1	課題に対する調査協力者の立場	33
5.5.2	課題に対する調査協力者の行動	33
5.5.3	課題終了後の調査協力者の認識	35

第6章 考察	36
6.1 非母語話者と接触機会が多い調査協力者（FCN）の特徴.....	37
6.2 非母語話者と接触機会の少ない調査協力者（LCN）の特徴	37
6.3 「やさしい日本語」への変換に関する特徴の違い	38
6.4 「やさしい日本語」への変換に関する調査協力者の認識の違い.....	40
第7章 まとめと今後の課題	42
7.1 まとめ.....	42
7.2 今後の課題.....	44

謝辞

参考文献

資料

1. 西村（2018）「「表記」から見る「やさしい日本語」—「やさしい日本語」使用の実態調査と有効性の検証を通して—」お知らせ①～④
2. 愛知県豊橋市「「やさしい日本語」を使ってみよう！」～これだけ！やさしい日本語～
3. 『日本語ロジカルトレーニング中級』P169
4. 厚生労働省「新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項」（抜粋）
5. 環境省・厚生労働省「令和2年度の熱中症予防行動」

近年、在留外国人は増加傾向である。在留外国人らが日本で生活する上で日本語の習得が必要となってくるが、そのような彼らの日本語習得に「やさしい日本語」の考え方は有効であると考えられる。「やさしい日本語」とは、外国人（非日本語母語話者）にとってわかりやすく、外国人（非日本語母語話者）のための日本語のことだと言えるが、「外国人側だけに日本語習得の負担を押し付けるのではなく、日本人側も「相手に伝わりやすい日本語とは何か」と常に自問していく必要がある」（庵他 2011:115）と考えられる。

日本では地震や台風など自然災害が多く、こういった災害がいつ発生するかわからない。災害が発生した際の非日本語母語話者への情報は、「外国人にわかりやすく、かつ情報を伝える側にとっても、正確、的確、かつ迅速に」（佐藤 2016:1）伝えられなければならないが、「やさしい日本語」の知識がない日本語母語話者でも、近隣住民であったり職場の同僚であったりする非母語話者に対して、命を守るための情報を正確に作り、迅速に伝えるということは必要不可欠となる。

また、緊急非常時だけではなく、今後さらに多文化共生社会が進み、様々な国・地域出身の、多様な言語や文化・習慣を持つ人々と接触する機会が増えていくにしたがって、彼らとコミュニケーションを取る手段として「やさしい日本語」を使用するということが有効だと考えられる。しかし、現在、日本社会において「やさしい日本語」というものの認知度がまだまだ低いという現状があり、しかも、一言で「やさしい日本語」と言っても、普段、非日本語母語話者との接触機会の少ない日本語母語話者にとって容易に使いこなせるというものではないといえる。

そこで、本研究では研究課題として、以下の2点を設定した。

(1)「非母語話者と接触機会の多い母語話者」と「非母語話者との接触機会の少ない母語話者」は、どのようなプロセスをたどって、いわゆる「普通の日本語」から「やさしい日本語」に変換するのだろうか

(2)「非母語話者と接触機会の多い母語話者」と「非母語話者との接触機会の少ない母語話者」では、思考の過程に違いはあるのだろうか

そして、「やさしい日本語」に変換する際に、どのような点を難しいと感じるのか、また何が困難なものにしているのかの原因について明らかにし、非母語話者と接触機会の少ない母語話者が「やさしい日本語」を使って、非母語話者と日本語でコミュニケーションを取ったり、非母語話者へ情報を発信したりできるようになる一助となることを期待する。

調査は、調査協力者6名（非母語話者と接触機会の多い母語話者（FCN）3名、非母語話者との接触機会の少ない母語話者（LCN）3名）を対象に行った。調査協力者6名に「熱中症予防」について書かれたテキストを発話思考法（think-aloud法）によって「普通の日本語」から「やさしい日本語」へ変換してもらった。そして、その際の文字化したプロトコルから、語彙と文法の難易度をはかり、変換の際に使用した機能を13のカテゴリーに分類した。その後、「やさしい日本語」に変換する際にどのように考え、どのような方法を駆使しているかについて調査協力者6名一人ひとりについて分析を行った。また、課題終了後に行った回顧法的インタビューの文字化したデータをKJ法によってグルーピングし、「やさしい日本語」への変換に対する調査協力者の認識について分析を行った。分析をまとめると以下ようになる。

- ・ 語彙のレベルと文法の項目からみて、やさしくなった程度に差異があるものの、6名

全員「やさしい日本語」への変換に成功したといえる。

- ・ 調査協力者6名が「言い換え」を最も多く使用することで、「やさしい日本語」に変換していた。そして、どのような方法で「やさしい日本語」に変換していたかには個人差があり、各々の方法で変換を行っていた。

さらに、FCN3名と LCN 3名とでみられた傾向や特徴について比較し、考察を行った。

- ・ 非母語話者と接触機会の多い調査協力者（FCN）：

用いた例が相手に理解されるかといった疑問は残るが、「言い換え」、「例示」、「飛ばし」、「ジェスチャー」等を使用しておおむね滞りなく「やさしい日本語」への変換を行った。

- ・ 非母語話者と接触機会の少ない調査協力者（LCN）：

「言い換え」、「例示」を使用し変換を行っている一方、難しい文（語彙）への葛藤が生じていたり、異なる意味合いととられかねない文への変換がみられた。

また、インタビューデータから、FCNと LCN とで、「課題終了後の認識」についての発話の有無、内容に違いがみられた。

- ・ FCNと LCN とともに「気づき」と「自己能力への言及」についての発話が見られたが、発話の内容に差異があった。
- ・ LCN のみ、「元のテキストに関しての言及」と「調査方法に関しての言及」の発話があった。

以上の結果、分析から、「やさしい日本語」についての知識や経験がなくても、非母語話者と接する機会に遭遇した場合には、まずはやってみることが重要であるといえる。「やさしい日本語」への理解や知識があるに越したことはないが、「やさしい日本語」への理解や知識がない人でも、相手への配慮や尊敬の気持ちを持って、まずは非母語話者とコミュニケーションを取ってほしいと考える。

<参考文献>

- 庵功雄 (2009) 「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から」
『人文・自然研究』 3, 126-141
- 庵功雄 (2014) 「「やさしい日本語」研究の現状と今後の課題」『一橋日本語教育研究(2)』
1-12
- 庵功雄 (2015) 「「やさしい日本語」研究が日本語母語話者にとって持つ意義—「やさしい
日本語」は外国人のためだけのものではない」『一橋大学国際交流センター紀要』 6, 3-
15
- 庵功雄 (2016) 『やさしい日本語—多文化共生社会へ』 岩波新書
- 庵功雄 (2021) 「日本語表現にとって「やさしい日本語」が持つ意味」『一橋日本語教育研
究』 9, 121-134
- 庵功雄監修 (2010) 『にほんごこれだけ! 1』 ココ出版
- 庵功雄監修 (2011) 『にほんごこれだけ! 2』 ココ出版
- 庵功雄・岩田一成・森篤嗣 (2011) 「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え：多文
化共生と日本語教育文法の接点を求めて」『人文・自然研究』 5, 115-139
- 庵功雄・イヨンスク・森篤嗣 (編) (2013) 『「やさしい日本語」は何を目指すか 多文化共
生社会を実現するために』 ココ出版
- 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美 (編) (2019) 『〈やさしい日本語〉と多文化共生』
ココ出版
- 岩田一成 (2010) 「言語サービスにおける英語指向—「生活のための日本語：全国調査」結
果と広島の事例から」『社会言語科学』 13-1
- 上田和子 (2019) 「日本語教育研究における「気づき」をめぐる一考察」『日本語日本文学
論叢』 14, 63-76
- 上野智子・定延利之・佐藤和之・野田晴美 (2005) 『ケーススタディ日本語のバラエティ』
おうふう
- 大橋理枝・根橋玲子 (2007) 『コミュニケーション論序説』 放送大学教育振興会
- 海保博之・原田悦子 (1993) 『プロトコル分析入門 発話データから何を読むか』 新曜社
- 金山泰子・藤本恭子 (2018) 「継承日本語話者である大学生の読解プロセスに関する調査—
発話思考法を用いたパイロットスタディー—」『ICU 日本語教育研究』 15, 37-55
- 川喜田二郎 (2017) 『発想法 創造性開発のために 改版』 中公新書
- 喜多壮太郎 (2002) 『ジェスチャー・行為・意味』 共立出版
- 木暮律子 (2018) 「「やさしい日本語」の指導に向けた一考察—日本人学生を対象とした調
査をもとに—」『地域政策研究』 21-2, 15-33
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 原理・方法・実践』 新曜社
- 佐藤和之 (2004) 「災害時の言語表現を考える—やさしい日本語・言語研究者たちの災害研
究」『日本語学』 23, 34-45
- 佐藤和之 (2016) 「生活者としての外国人へ災害情報を伝えるとき—多言語か「やさしい日
本語」か—」『日本語学』 28-6, 173-185
- 佐藤和之 (2016) 「多言語対応と「やさしい日本語」—「やさしい日本語」は日本語か外国
語か—」『多言語対応・ICT化推進フォーラム』

- 副田恵理子 (2000) 「文章産出過程における母語の使用の分析：発話思考法を用いて」『北海道大学留学生センター紀要』 4, 81-101
- 徳永あかね (2009) 「多文化共生社会で期待される母語話者の日本語運用力—研究の動向と今後の課題について—」『神田外語大学紀要』 21, 111-129
- 西村彩香 (2018) 「「表記」から見る「やさしい日本語」—「やさしい日本語」使用の実態調査と有効性の検証を通して—」『語文論叢』 33, 62-45
- 西脇俊哉 (2018) 『日本語ロジカルトレーニング中級』 アルク
- 野田尚史・森口稔 (2003) 『日本語を書くトレーニング』 ひつじ書房
- 野田尚史 (2014) 「「やさしい日本語」から「ユニバーサルな日本語コミュニケーション」へ—母語話者が日本語を使うときの問題として—」『日本語教育』 158, 4-17
- 藤木大介・外尾恵美子・鈴木みどり・服部慎吾 (2016) 「学校のお知らせを「やさしい日本語」に書き換える方法—外国人児童生徒の保護者にとって了解可能な文章を想定することの効果—」『読書科学』 58(2), 87-96
- 森雅子 (2000) 「母国語および外国語としての日本語テキストの読解—Think-aloud 法による 3 つのケース・スタディー—」『世界の日本語教育』 10, 57-72
- 柳田直美 (2015) 『日本語教育学の新潮流 12 接触場面における母語話者のコミュニケーション方略 情報のやりとり方略の学習に着目して』 ココ出版
- 柳田直美 (2020) 「非母語話者は母語話者の〈説明〉をどのように評価するのか—評価に影響を与える観点と言語行動の分析—」『日本語教育』 177, 17-30
- 山口真紀・野原佳代子 (2019) 「日本研究を行う日本語学習者の古典日本語読解における語句の意味推測 国内教育機関における古典日本語学習支援の方法を探るために」『言語文化教育研究』 17, 147-168
- 山崎恵 (2020) 「やさしい日本語再考」『姫路獨協大学国際言語文化論集』 1, 61-73
- 和氣圭子 (2013) 「中上級日本語学習者の読解における困難点：think-aloud 法による事例研究」『言語科学研究：神田外語大学大学院紀要』 19, 101-115
- Ellen Block. (1986), *The Comprehension Strategies of Second Languages Readers*, TESOL, 20(3), 463-494
- Melissa A. Bowles. (2010), *The Think-Aloud Controversy in Second Language Research*, New York: Routledge

<参考 URL>

愛知県豊橋市ホームページ「やさしい日本語」

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/23542.htm> (2021年3月18日最終閲覧)

一般財団法人自治体国際化協会「多文化共生ポータルサイト」

<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/info/contents/114517.php> (2020年6月18日最終閲覧)

厚生労働省「熱中症予防のために」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212502_00001.html (2020年6月20日取得)

厚生労働省「新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00009.html (2020年6月20日取得)

静岡県富士市ホームページ「「やさしい日本語」(新型コロナウイルス感染症、COVID-19のじょうほう)」

<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/sp/machi/c1105/rn2ola000002g1x8.html> (2020年6月18日最終閲覧)

東京都オリンピック・パラリンピック準備局「2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ポータルサイト」

<https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/multilingual/references/easyjpn.html> (2020年6月18日最終閲覧)

日本語読解学習支援システム「リーディング チュウ太」

<http://language.tiu.ac.jp/> (2021年3月10日最終閲覧)

文化庁「令和元年度 国語に関する世論調査」

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92531901.html (2020年1月31日取得)

文化庁「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2018/06/19/a1401908_01.pdf (2020年6月18日最終閲覧)

法務省「令和2年6月末における在留外国人数について 令和2年10月9日公表資料」

<http://www.moj.go.jp/isa/content/930006222.pdf> (2021年3月29日取得)

法務省「外国人生活支援ポータルサイト」

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri10_00052.html (2020年6月18日最終閲覧)

「やさしい日本語」 科研ホームページ

<http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi/introduction.html> (2020年6月18日最終閲覧)

NHK「News Web Easy」 <https://www3.nhk.or.jp/news/easy/> (2020年5月30日最終閲覧)